

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171300017
法人名	社会福祉法人 清水福祉会
事業所名	グループホーム たんぽぽ
所在地	佐賀県小城市小城町821-4番地 (電話) 0952-72-3408

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年4月27日

【情報提供票より】(平成21年2月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	9 人	常勤	3 人, 非常勤	6 人, 常勤換算	6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 6階建ての1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,400 円	その他の経費(月額)	日額	200 円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	3 名	要介護2	2 名			
要介護3	3 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86.3 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 ひらまつ病院 ・ そがデンタルクリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は北西に天山を仰ぎ見、北に須賀神社と六月には蛸舞う祇園川、南に佐賀平野の広がりのある自然の中に位置している。法人は特別養護老人ホーム・老健施設・ケアハウスなどを併設しており、これらの事業を通じた地域貢献を理念として取り組んでいる。
--

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を全職員や家族・運営委員に配布、その内容を熟知し、検討・改善すべき点を共有している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	過去一年間において自己評価への取り組みはなされていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーの区長や民生委員より、防災や初期消火活動について教示してもらい、地域消防団との連携を密にしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便りを季刊で発行しているが、ホームでの様子は毎月2回家族に知らせている。又、家族の面会時には必ず声掛けをしており、入居者の日常の暮らしぶりや健康状態を伝えている。家族会もあり、意見等は職員会議で検討し運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事等には積極的に参加している。地区の中学校のボランティア活動や地域ボランティアの訪問を受け入れる等、共に暮らす地域の一員として支援している。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「思いやりは笑顔をもって社会貢献します」にホーム独自の「私らしく生きるためにやさしさと思いやりを持って心とからだの健康をサポートします」という理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は日々の業務の中で理念の実践に努めており、毎週の定例会やミーティングで理念を読み上げたり、意義の理解に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	歌の地域ボランティアの訪問や、地元中学校のボランティアを受け入れたり、毎日の買い物の中で地域の方々との交流が図られている。法人の夏祭りは地域に開放され、地元の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果は全職員・家族・運営委員に配布しており、職員の勉強会で取り上げたり、改善課題となったものは検討し、改善に努めている。過去一年間における自己評価への取り組みはなされていない。	○	年1回の自己評価を計画的・継続的に取り組むとともに全職員が自己評価の意義や活かし方を理解し、評価の一連の過程を通じた更なるサービスの質の向上を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地元区長や民生委員・入居者家族・市・地域包括支援センター・入居者で構成されており、ホームの活動や計画を報告している。運営推進会議では双方向の意見交換があり、議事録も整備されている。会議で出された意見については積極的に受け止め、サービスの向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターの保健師やボランティアコーディネーターから情報提供を受け、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時には職員は必ず声掛けをして、利用者の暮らしぶりや健康状態を知らせている。また、月の行事計画や金銭管理報告時に暮らしぶりを伝えている。季刊で発行している便りも送付している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時や年2回の家族会時には、不満、苦情等を表せる機会を設けているが、今のところ不満や苦情はない。意見等については、その都度検討しそれらを運営に反映させる仕組みがある。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職で職員が代わる場合は、家族にも季刊のたより「たんぼぼ通信」を送るとともにその都度お知らせしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会の開催情報は法人からホームに伝えられ、全職員が法人内外の研修に参加できる機会を確保している。研修受講後は研修内容を全職員で共有している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、地域の他の事業所と交流の機会を確保しており、グループホーム相互間の情報を得て、サービスの質の向上を目指している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスを利用出来るよう、入居前に自宅を訪問したり、家族と共にホームの見学や利用体験をしてもらいながら、徐々に馴染みの関係を作り上げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が出来る事を進んでお手伝いする雰囲気を作り、支援する・される関係ではなく、人生の先輩として接している。掃き掃除・はたき掛け・茶碗洗い・茶碗拭き・野菜づくり・刺し子・洗濯物たたみなど共に暮らす家族として支えあい、穏やかな生活が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のかかわりの中で、利用者一人ひとりの思いや希望、意向を把握することに努めている。何気ない言葉や表情から、趣味等についての支援に繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、本人や家族の意見や希望等を聴き、毎月全利用者のケアプランをスタッフ全員で話し合い、介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に定期的見直しや評価の他、期間にとらわれず個々の状態の変化に応じ、随時、管理者やケアマネジャー、看護職員・介護職員等で方向性を話し合い、家族の要望を組み入れた介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の都合・要望を踏まえた医療機関受診や、週1回外泊する利用者の支援や、理美容室への同行サービス、「ふるさとめぐり」のドライブ等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関の受診を支援し、基本的には家族同行の受診であるが、家族による付き添いが不可能な場合は職員が同行し、家族には後で受診結果を報告している。協力医療機関と事業所の看護師は24時間体制で連携が来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期の医療のあり方について、契約時に話し合いが行われている。医療機関とは協力体制をとり、最終的に家族の希望にそよう全職員が方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを傷つける事がないよう、言葉かけや口調に注意や配慮をしている。事務室はオープンであるが、記録等の個人情報の取り扱いも秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れは決まっているが、一人ひとりの状態や希望を大切にした支援を行っている。新聞読み、折り紙、運針、月1回のカレンダー作りの創作活動、計算ドリル等ゆったりした流れの中で支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、法人の栄養士が立案しているが、メニューはあえて掲示せず、前日に利用者と一緒に食材の調達に出かけ、利用者の好み等柔軟に対応している。調理の手伝いは男女問わず積極的で、職員も一緒に同じ食事を戴き、和やかである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、楽しく入浴できるようにしている。気の合った利用者2～3人が温泉気分で楽しまれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	イチゴ・玉ねぎ・ゴーヤ・パセリ等の季節を肌で感じる作物づくりをしたり、自室の掃き掃除やモップかけ、洗濯物干しやたたみ等一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	同一建物のケアハウスで開催されている月2回のカラオケや映画鑑賞会に出かけたり、食材調達に毎日出かけている。2ヶ月に一度は全利用者外食の日があり、年2回は運営委員と合同の小旅行を実施している。又、天気の日には建物の南側にテーブルを出して食事会やお茶会をして、めりはりのある日常生活を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中は施錠されていない。見守りを徹底する事により、安全面に配慮した自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に地域の消防団と連携し、利用者と共に避難訓練を行っている。避難方法、場所、連絡経路を全職員が周知し、混乱が生じないようにしている。防災時の非常食もストックしている。非常時の利用者が地域の方々の支援を受けられやすい体制整備が検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の協力を得て、献立の内容やカロリー計算をしてもらい、一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量が把握出来ている。ホールには、緑茶や麦茶が用意されており、いつでも自由に飲むことが出来るよう配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には腰掛けて下足と履き替えが出来るスペースがあり、その先は中庭が設えてあり、採光に気を配り、利用者が日向ぼっこを楽しむ場所となっている。ホールのソファはゆったりと寛げる場となっており、事務所もオープンで閉塞感がなく、カウンターには季節の花や折り紙飾りや創作品を置き、落ち着いて居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や椅子・テーブル・テレビ等を持ち込み、位牌や仏壇もあり、季節の花や写真をかざり、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		